

絶好な天気にも恵まれた11月18日、3年ぶりに「久しぶりの懇親会」を開催しました。

今回は本部から岡林理事長、土屋裕理事、飯島弘事務局長、小島清明広報担当理事そして中部支部所属・中野浩司さん、東京支部所属の森 征司さんが参加され総勢76名だった。

中野様、森様の参加は論語「朋あり遠方より来たるまた楽しからずや」そのままの光景でした。

何十年ぶりの再会者もあり懇親会参加の意味を深めたようです。

コロナ禍で参加者数を心配したがピークの狭間感や同好会仲間が参加を押ししたようでした。

この3年間、総会は紙上総会、支部通信での報告・情報提供など積極的に行って来たつもりだが直接の声が聞かれない状態が続き、コミュニケーション不足や疎遠さが増すことが心配された。

そこで今回、是非開催したく取り組みました。

現在、本庄支部会員（315名）の約60%が後期高齢者であり、不具合もある日常生活では心の持ち方もQOLの向上に大切と考えました。

そこで藤沢周平の三屋清左衛門残日録の主人公、清左衛門の心情を表した言葉「日残りて 昏るるに未だ遠し」を借りました。

家督を譲り、離れに起臥する隠居の身となった清左衛門は家族や友人達の（老け込まないで）と言う呼びかけに応じて、自らも未だ役に立てると

奮起し日常の鍛錬と研鑽を心がけ、家族、周辺の人々との交流の中で起きる事件、事案を解決して行く。その清左衛門の心底にある言葉です。この言葉を暫くコンセプトとするのも良いかと考えた。

懇親会会場は本庄市・五州園とした。

昔、五州園は伊勢崎市に続く街道筋だったが11年前に東約500mに移った。

高齢の会員は宴会や研修や宿泊で五州園を利用した。

五州園の名前の由来は五州の山々（上州・赤城山 常州・筑波山 野州・日光山 信州・浅間山 越州・三国連山）が見られたのが由来だ。

移転した五州園は宴会、会議室などの専業となった。

コロナ禍の第8波が直前であり、役員達はやきもきしながら準備をした。



① 参加者にはコロナ感染防止のお願いを発信（ハガキ）と当日の案内をした。②円卓にはアクリルパネルの設置③当日参加者に配布するプログラムの中で防止行動を呼びかける。④参加の足は本庄駅から五州園の送迎バスを用意した。渡部副支部長が「にわか添乗員」になり、額に汗を滲ませながらバス利用者の点呼や本庄事業所のその後を車窓から案内してくれた。

懇親会は1部、2部として1部は報告事項、2部は楽しむことを中心にした。

1部：岡林理事長の講話

理事長より「豊友会の今」と題して10年前の豊友会の姿から10年間の様々な変化の説明があった。

それは振り返り、そして現状を認識しながら前に進もうという呼びかけだった。

エーザイ(株)の内部変革は定年退職、自己都合退職の二本立てから希望退職者募集、キャリア採用など社員構成に激変があり豊友会存在認識が希薄になった。7支部の規模も東北が38人で最小、東京が980人、本庄が312人、中部が221人とばらつきがあり、また会員の居住地も支部によりばらつきがある。これらはコミュニケーションの充実には大きな障害になっていて役員達は工夫をしている。

女性会員は東北3人、北海道6人、中部22人で約10%、東京が83人で8%、本庄支部は128人の26%であり豊友会への関心を期待したい。

岡林理事長より本庄支部の今後を考えると「悩み尽きない」ことが理解出来る。

それ故、皆さんも豊友会活動に関心をもたれ協力をお願いしたいと要望された。

*本庄支部報告 (吉田)

報告では、前述したコンセプトの説明や、3年間の変化報告があった。

物故者24名の報告し、黙とうし冥福を祈った。続いて喜寿者紹介とお祝い品贈呈、支部構成の実態を説明、さらに本庄工場の跡地の今などの紹介をした。



写真はプリントパック(株)の好意提供された。

右横の道路は上の先には高崎線がある。赤い屋根の下が正門だった。桜の木は跡形も無い。その下で斜めに走る道路は本庄高校に続く道。広さは約1万坪。

このようにこの場所は鶴巻製糸工場→エーザイ(株)本庄工場→プリントパック(株)本庄工場となった。

プリントパック(株)からはこの他2方向の航空写真が提供された。感謝したい。

2部・会食と音楽

3年前の懇親会はジャズバンドで若い頃の曲の演奏や歌を楽しんだ。今回もその傾向にならざるを得なかった。今回は群馬県高崎市で活動する歌手・中野新太郎とその仲間達(電子ピアノ・MIWAKOさん、サクソ・鈴木健太さん)に依頼した。



中野新太郎はシャンソン歌手を目指していた。今はシャンソンから歌謡曲まで聞かせている。

時代を反映した「上海帰りのリル」から自曲の「甘楽の夜」「ピエロの絵」や「サントアマミー」

「コーヒールンバ」「酒とバラの日々」「コモエスタ赤坂」「愛の賛歌」など特に「ヨイトマケの歌」は美輪明宏の長い曲だが聞かせてくれた。アンコールではシャンソンの「枯葉」で楽しませてくれた。

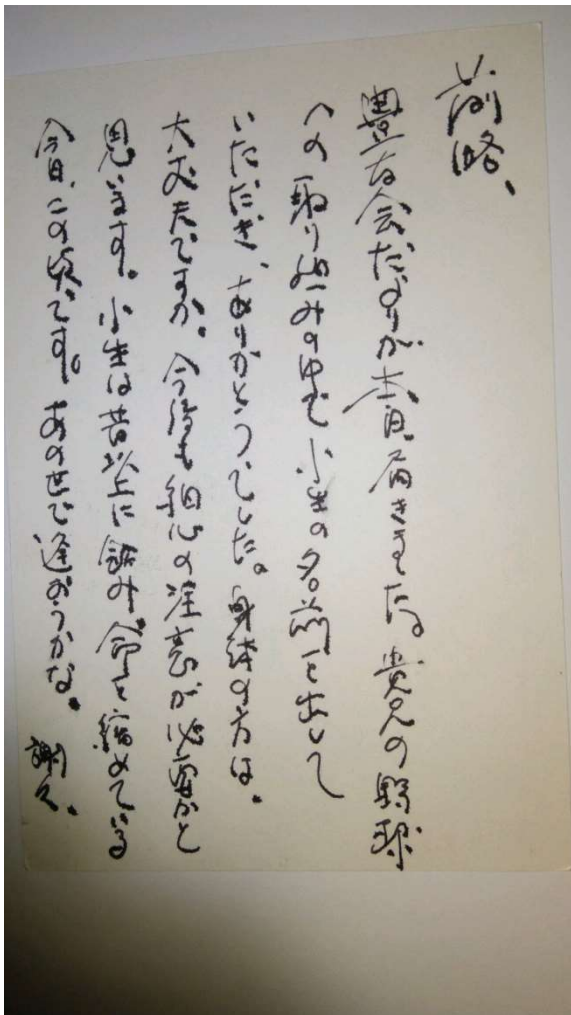
また、サクソと電子ピアノは普段は味わうことが出来ない生演奏の空気を届けてくれた。

演奏の休息时间や演奏の合間では、昔話に華も咲いたようだが健康と無事を確かめることに喜びがあったような気がする。参加者は70名で支部全体の約22%、男性と女性の割合は殆ど半数ずつだった。

これからの豊友会は会員間のコミュニケーションを充実させ、団体活動は難しくても、各々が周囲に対して何が出来るのだろうかを考える時代なのだろうと感じた。

その前提には健康である。そしてコミュニケーション活動やコミュニティ活動を正しく解釈して参加することがQOLの向上にもつながると考える。

11月号の豊友会だより(70号)の「丸ごと支部紹介」の中で長谷川勇さんが寄稿したシルバー野球も立派なコミュニティ活動である。この記事を読んだ中部支部の坂下繁さんから長谷川さんに写真のような礼状が届きました。豊友会活動が旧交を温めている一つの例であり、明日への張り合いにつながる。



今回の参加者は女性が33人、男性が37人で最高年齢は木村彦志さん(89歳)だった。

遠方では高橋敏子さんが群馬県富岡市から上信電鉄、高崎線を乗り継いでの参加でした。

喜寿者は対象者が今回(令和4年10月から令和5年3月)は17名でしたが8名が参加しました。対象者には誕生月に1万円のクオカードが自宅まで郵送されるか、今回のように集合する機会があればその場で贈呈されます。

コロナ禍での開催で五州園側も気を使ったことにはうかがえた。

With corona と言っても実際はなかなか難しいものです。

最後に本庄工場(事業所)の跡地で出来たプリントパック(株)

本庄工場の航空写真(これは貴重な写真となると思う。会員で欲しい方は吉田まで)とせきねの羊羹をお土産に散会した。

皆様 ご苦労さまでした。

宴会後に五州園や参加者に聞きました。

お酒の量も予想より多く出た。料理も良く食べてくれた。

参加者の評価を聞けば「楽しかった」と言う評価が多かったと伝えてくれた。以上支部懇親会の報告です。

諸準備に活動してくれた役員には感謝したい。(吉田の感想)

本庄支部役員：吉田豊、渡部良一、宮下喜久雄、長谷川勇、内野鉄男、田島ゆき江、福島光江、川田祐子

*追伸：20日夕方、中野新太郎さんからお礼の電話がありました。宴会の中でも聞いてくれている人が多く、張り合いがあったとのことでした。

*最後に「昨日出来たことは 今日出来る」健康維持の極意かも・・・NHK 心の旅より